

2013年12月21日

第9回情報システム学会 全国大会・研究発表大会 開催報告

大会実行委員長 佐々木 桐子(新潟国際情報大学)

2013年11月30日(土)、新潟国際情報大学新潟中央キャンパスを会場に、「第9回全国大会・研究発表大会」が開催されました。新潟国際情報大学で情報システム学会の全国大会が開催されるのは、2007年の第3回大会に続いて2回目となります。

今回の第9回全国大会・研究発表大会は、「情報システム学」という学問がさまざまな節目にあるという現状(たとえば、開催校である新潟国際情報大学の情報システム学教育が20年目を迎えること、浦昭二先生の追悼論文集が刊行されたこと、等)を踏まえ、「情報システム学」の原点を再考し、「これからの情報システム学」への橋渡しとなる議論の場を提供したいと想いから、「人間中心の“これからの情報システム学”を探る」を大会のテーマに掲げました。

本大会では、一般発表38件、研究会報告6件、合計44件の発表・報告があり、情報システムの本質的な視点、歴史的な事例や考察、企業・組織からの視点利用者側からの視点など、活発な議論・意見交換が行われました。大会当日は、全国の大学、企業、などから100名の参加をいただきました。

特別講演では、金井度量衡株式会社代表取締役の金井利郎様の「はかる未来価値の創造 -百年企業が実践している人財教育-」、元前橋工科大学教授の神沼靖子様の「情報システム学の教育体系と学び」の特別講演がありました。また、新情報システム学体系調査研究委員会を中心に進められている「情報システム学序説」に関する報告や、「人間中心の情報システム学」編纂委員会を中心にまとめられた「浦昭二先生追悼集」に関するご案内がありました。「浦昭二先生追悼集」は、伊藤重隆会長より開催校の新潟国際情報大学へ5冊贈呈されました。

大会当日の夕方には大会会場に近い「ビストロ椿」にて情報交換会を開催し、49名のご参加をいただきました。新潟の地のもを囲みながら活発に情報交換を行い、大いに盛り上がりました。

この情報システム学会の全国大会を開催するにあたり、たくさんの方々のお力を拝借し、またたくさん温かい励ましをいただきました。新潟での全国大会を無事終了することができましたことをここに報告いたしますとともに、新潟県内外の団体、企業から、たくさんの協賛・後援をいただきましたことを改めてご報告およびお礼申し上げます。

みなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。